

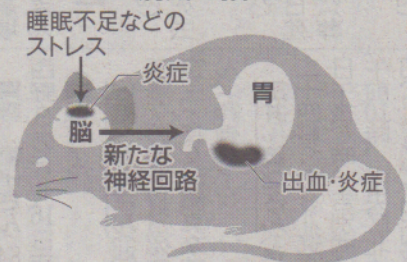
「病は氣から」仕組み解明

北大教授ら

ストレスや過労が胃腸炎、突然死を招くメカニズムを、北大大学院の村上正晃教授(免疫学)らの研究チームが解明し、15日付の科学誌「イーライフ」で発表した。ストレスが体に与える影響を科学的に解明したのは初めてで、今後、ストレス性の病気の予防、治療への応用が期待される。

認した。脳内の炎症は新たな神経回路を作りだし、胃腸の出血などを引き起こすという。胃腸の出血は心不全など突然死のリスクを高める。

ストレスが病気を招くメカニズム



ストレスの影響確認

また、特定の免疫細胞が脳内の炎症を引き起こしていることも発見した。この免疫細胞を注入したマウスにストレスを与えると、約8割が1週間ほどで突然死した。免疫細胞は本来、ウイルスなどから人体を守るためにあるが、ストレスが加わると脳内に炎症を起こす性質を持つという。村上教授は「持っている免疫細胞の量は個人差があり、ストレスへの耐性の差になっている可能性がある」と話している。来夏にも、実験用マウスを宇宙空間に打ち上げ、無重力下での実験も行う予定だ。